

問題生態系計測研究会

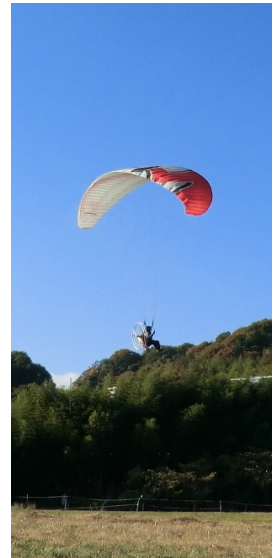
第 53 回学術講演会特別企画報告(平成 24 年度秋季@広島大学)

◆ 開催の趣旨

近年、各種の生態系における土地、水、植生、環境因子等の質と量の劣化が国内および世界各地で顕在化し大きな問題になっています（これらを問題生態系と総称しています）。これら問題生態系では、時空間的な変動を広域的にとらえ、評価し、変動の要因を解明することが不可欠です。リモートセンシングをはじめ GIS・モデルなど空間情報技術による計測・評価は、問題生態系の研究と問題解決にきわめて重要な役割を果たすものです。当研究会ではこのような問題に関する情報交換やセミナー、プロジェクトの受託、刊行、普及啓発などを進めています。今回はその一環として、UAV など低高度プラットフォームによる生態系計測の実際とノウハウについての現地研究会を行いました。

◆ プログラム

1. 日時: 2012 年 11 月 18 日 (日)
2. 場所: 広島大学大学院生物圏科学研究科附属農場
3. プログラム
 - 1) 趣旨説明 井上 吉雄 (研究会会長、農業環境技術研究所)
 - 2) 農場の概要説明 黒川 勇三 (広島大学大学院生物圏科学研究科)
 - 3) 低空プラットフォームによる空撮実演
 - ① 係留気球 作野 裕司 (広島大学大学院工学研究院)
 - ② ラジコン飛行機 弓場 憲雄 (広島県立総合技術研究所)
 - ③ ラジコンヘリ 吉田 貴樹 (BIZWORKS 社)
 - ④ パラモーター 吉田 貴樹 (BIZWORKS 社)
 - 4) 空撮画像の処理・事例・解説 全講師
4. 交流会



当日は天候に恵まれ、多くの参加者（合計 37 名）を得て、放牧草地圃場で計測実演が行われました。気球、ラジコン飛行機、ラジコンヘリ、パラモーターをプラットフォームとした空撮は、それぞれの特徴がありますが、それが十分実感されたようです。野外実演の際も室内での観測結果を見ながらの解説時にも、基本的な質問や最新技術の到達点に関する質疑が飛び交いました。いずれの講師からも、プラットフォームの開発実績や運用経験などをふまえての貴重な情報やノウハウを熱心に説明していただきました。低層プラットフォームは、低コストで適時に観測を実施できるという点で、今後とも生態系リモートセンシングの一角を支えるものと期待されます。幅広い専門分野からの参加があり、また、若い参加者も多く、交流会での宴の際にも、自由闊達な意見交換が行われました。低層リモートセンシングの今後の多面的な利活用を促進するうえで有益な研究会となりました。

なお、本企画を実施するにあたって、ご尽力・ご協力をいただいた広島大学の川村健介氏、作野裕司氏、黒川勇三氏、ならびに関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。 (井上吉雄)